

未来の医療に向けて

茨城県立並木中等教育学校 3年 角田 妃奈子

この夏、私はある大学の研究チームが主催する最先端医療技術の体験会に参加した。そこでは、装着型サイボーグHALといわれるロボットを装着して様々な動きを体験した。例えば、HALを腕に装着し、自分が行いたい動作を意識すると、脳で発生した信号をHALが検出して動き、肘を曲げたり伸ばしたりすることができる。同様に、腰に装着するとHALの動きで起き上がったり、立ち上がったりすることができる。これにより、身体が麻痺してしまった人でも、その人の思いで身体を動かすことができるのだ。これを繰り返すことにより、動作の情報が筋肉から脳へフィードバックされ、次第にHALを装着しなくても身体を動かすことが可能になる。このようなことから、HALは現在、医療現場、介護現場、作業支援を必要とする現場において広く利用されている。特に医療現場においては、神経・筋難病に指定されている疾患に保険適用され、今後、様々な疾患への保険適用が期待されているそうだ。私はHALの機能を実際に体験したことにより、その技術の素晴らしさに感動した。また、それと同時にHALが保険適用であることに安心した。

日本では、憲法第二十五条の定めに基づいて、社会保障制度が整備されてきた。医療保険は、その中の社会保険に含まれている。これにより私たちは病気やケガ、老齢などによる生活不安を取り除き、生活を安定させることができる。社会保障は、国の歳出のトップにある。つまり、私たちは医療保険を使用するにあたり、税のありがたみを意識する必要があるのだ。いくら素晴らしい医療技術が開発されても、その使用料が高額では多くの人に使ってもらえない。医療を支える上でも、税金は欠かせないものなのだ。

一方で、社会保障制度には課題がある。それは、少子高齢化の影響で高齢者の医療費が増大しているのに対して働き手が減少するため、国の収入が減ってしまうことだ。最先端な医療技術を使ってもらうためにも、社会保険は欠かせない。しかし、それでは国の財政も苦しくなる。では、私たちは一体どうすればよいのだろうか。私は一人一人が老後も健康でいられるように意識して生活することが課題解決へ繋がるのではないかと考える。例えば、一日三十分程度体を動かす、栄養バランスの取れた食事を心がけるなど、これだけでもかなり健康な身体を維持できるはずだ。健康でいるということはつまり、医療保険の給付を減らすことに繋がる。これにより、本当に医療が必要な人にだけ税金を使うことができる。私たちは、社会保障制度に甘え、当たり前のように医療保険を使っていないだろうか。未来の医療を支えていくためにも、医療に私たちの大切な税金が使われていることを深く意識するべきだ。私は、その一人一人の意識が、日本の医療の明るい未来に繋がっていくと信じている。